

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 2014.7



「鷲の刺繍画」
1916年、米国のメソジスト監督教会から日本・朝鮮の伝道に派遣されたハーバート・ウェルチ監督は、青山学院財団法人理事としても尽力した。この刺繍画は、監督が1928年その任を終えて帰米の際、1890年に設置された海岸女学校手芸教室にルーツをもつ青山学院高等女学部の生徒が、感謝のしるしとして制作し贈ったものである。そして35年後の1963年に、監督本人から学院へ記念品として返還寄贈された。
生徒たちの作品は技術的な評価が非常に高く、この作品もそれを裏付ける見事な作品である。



ハーバート・ウェルチ監督
(1862～1969)

資料センター所蔵資料紹介

第6代院長阿部義宗関係資料 氣賀健生 —2

世田谷キャンパスの思い出 井出英人 —4

資料センター利用状況・日誌抄 —6

受入れ資料 —7

利用案内 —8

第6代院長阿部義宗関係資料

青山学院大学名誉教授 氣賀健生



阿部義宗

「青山学院は250名の教職員が、厳父慈母に代って3,600名の子弟を養育する大家族であり、愛と犠牲と奉仕に充ち満つる所であります」。1933年、青山学院第6代院長阿部義宗は、就任に当たってこ

う述べ、「ああ母校、吾が青山学院。私はこの学院を心から愛し、自分の全生命をこの学院に捧げ盡さんことは、私の晝夜のひそかなる祈願であります」と言葉をむすんでいます。青山学院資料センター所蔵キリスト教貴重文献・史料紹介第10回は、「阿部義宗」にかかわる資料の紹介です。

阿部義宗は1886年12月3日、弘前に生れ、伯父本多庸一（青山学院第2代院長）の創立した弘前教会に於て伝道者としての召命を受け、青山学院、米国ドゥルー神学校、ニューヨーク大学大学院に学んで、母校青山学院に奉職。教師として英語、社会学、神学を教え、研究者としてキリスト教社会学の論文を発表し、青山学院教会牧師、学生寮舎監をつとめ、中学部長、神学部長、院長を歴任し、理事、評議員として経営の責任を負うなど、その生涯はまさに青山学院と歩みを共にしたと言えるでしょう。

1939年、日本メソジスト教会監督に就任に際して青山学院長を辞任。1941年日米戦争の前夜、阿部は日米キリスト教会代表者協議会の日本代表団々長として渡米。平和を求めて全米各地に遊説し、ハル国務長官と会談して平和の条件について合意。戦争回避の方策を近衛首相に進言。近衛は之を歓迎しましたが、東條陸相が激怒し、この時から阿部の身边には特高警察がつきまとうこととなります。「特高情報」昭和16年6月20日には阿部の動静が詳細に載っています。

この年日本基督教団設立総会議長をつとめ、教団成立後、初代教団総会議長就任を固辞して中国

にわたり、中国の教会を援け、日本軍の横暴をいましめ、和解のために盡します。

戦後は引揚者団体全国連合会々長として奉仕し、賀川豊彦と共に日本キリスト教平和協会を設立。文部省顧問として歴代の文部大臣を援け、多くのキリスト教関係事業の理事、乃至理事長として活躍。そしてキリスト教学校教育同盟会長を最後に、一切の公職から手を引き、召命の原点に還り、一牧師として会員13人の開拓伝道をはじめます。これが本多記念教会の濫觴でありました。それから23年、現役牧師として伝道者90歳の生涯を全うし、1980年3月1日召天。「私の一生のうちで本当に心から神に感謝して行ったことは、本多記念教会を創立し、仕えたことである」と、自ら語っています。

青山学院資料センターには、阿部義宗の人物と事業を知るべき資料が揃っています。それらは礼拝説教をはじめ、多くの手記、日記等の自筆原稿、履歴書、葬儀関係書類、阿部家及びそのルーツの史料等多岐にわたっていますが、これらの史料は、阿部義宗の御令息・御長男の故義一氏、および元慈恵医科大学長の御令息・御次男の正和氏の当資料センターへの寄贈にかかるもので、筆者にその整理を委託されたものです。以下「阿部義宗資料集」として簡単な解説と共に紹介しますが、それらは前述の通り、青山学院史そのものの一側面を如実に語っているものと思われま

す。「阿部義宗回顧録」。これは1975年ごろ、本多記念教会壮年会有志によるインタビューの録音テープ全10巻及びその速記録です。文字通り阿部義宗一生の回顧談で、本人の声



阿部義宗夫妻金婚式



震災救護団のトラック

咳に接することができ、大変貴重な記録です。次に阿部義宗の礼拝説教原稿は、計51回分残されています。青山学院教会及び青山女学院での礼拝の分が合計49回、本多記念教会での分は意外にもタッタ2回分のみです。

次に阿部家・本多家のルーツ史料として次のものが当資料センターにあります。

- (1)知行帳・正徳二年九月
- (2)知行帳・正徳三年二月
- (3)阿部家由緒書・阿部半次郎宗定作製

その他阿部家の親戚関係等の解説

これらの資料は主として故阿部義一氏の提供されたものです。

また阿部義宗をめぐる膨大な写真のコレクションがあります。若き日の阿部義宗から晩年に至る沢山のポートレート。特に「大正二年二月一日・伝道記念・初牧会記念・阿部義宗二十八年」と自らのサイン入りの写真があり、颯爽とした初陣の阿部牧師の勇姿がしのばれます。また中学部長・神学部長・院長としての数々の写真は、青山学院と共に歩んだ彼の一生を偲ぶことができます。また1923年（大正12）の関東大震災に際して、流言飛語によって迫害された在日朝鮮人を、青山学院はキャンパス内の寄宿舎等に保護しましたが、その先頭に立って八面六臂の働きで彼らを救い、殊に救援物資を積み込んだトラックの上で、阿部学部長が学生達のボランティア活動を指導している写真が印象的です。

前述したように晩年の阿部が、一切の公職から退いて、僅か13人の会衆と共に開拓した渋谷氷川伝道所が、やがて渋谷氷川教会＝本多記念教会へと発展する各時代の貴重な写真が、阿部牧師の一心不乱の伝道者姿と会員名簿と共に揃っています。

キリスト教界の人びとから阿部義宗あての手紙

もかなりあります。岡田哲蔵・山田寅之助・間島弟彦・川尻正脩等々。本多庸一の弟子で明治時代の著名なクリスチャン外交官珍田捨己の手紙、それから「呈義宗君、八十二歳黙ニ老」という巻紙の手紙があって、人生の教訓めいた達筆の書です。この「黙ニ老」は阿部義宗先生を「義宗君」と呼んでいるのですが、どなたかご存知の方がいらっしゃれば、ご教示頂きたいと思っています。大変貴重なものと思われます。

阿部義宗の人物紹介記事で、この関係史料の中にあるもののうち、卓抜なものを2点ほど紹介しておきましょう。ひとつは「阿部義宗論」楠正人で、「横浜青年」（横浜YMCA機関誌）1938年6月1日所載。楠正人は勿論仮名で、当時の横浜YMCA総主事久芳昇氏。痛快な論評で「彼は普通の牧師でもない。勿論学校の教師でもない。彼は政治家としての素養も充分備えているし度胸の良い話せば分かる男である。彼は相手にして手応へのある男である」。もうひとつの「阿部義宗論」は八幡太郎の仮名で筆者は当時青山学院神学部教授比屋根安定氏。「彼は教理を固く教へ込む牧師であるまい。雄辯流るる如き説教家でもあるまい。然し彼は統率の才があり、会員と共に泣き共に喜ぶ良い牧会者である」と美事に阿部義宗の本質をとらえています。

その阿部義宗の手書きの草稿を含め、人物紹介的文章を何編かとりあげるとすれば次の通りです。

- (1)「みづからのほど」と「他人のほど」—真の「ほどほど」の意味は？

と題されたエッセイですが、彼の人柄を知るほどの方はこの題だけでいかにも彼らしいと思われるでしょう。

- (2)青山学院の今日—特に小学校幼稚園に就て—
- (3)あわが命この学院に捧げん（報知新聞）
- (4)好日閑話・阿部義宗氏（東奥日報）
- (5)可憐なるセンチ詩人阿部義宗氏（日本メソジスト新聞）
- (6)本多庸一先生と阿部義宗先生（都田恒太郎）
- (7)渋谷氷川教会建築趣意書・記念写真共
- (8)青山学院学風の樹立・阿部義宗
- (9)日記（昭和3年3月—昭和4年2月）外遊中の日記
- (10)Edmund D. Soper (Julius Soper とは別人)

の手紙 オハイオ・ウェスレイアン大学の理事会が阿部義宗に神学博士の学位を贈ることに決した通知。 —以上—

世田谷キャンパスの思い出

青山学院大学名誉教授 井出英人

時々巨大なマンションが建ち並ぶ世田谷キャンパス跡を通ります。しかしなぜか必ず涙が出てきます。この地で38年間過しましたから。

キリスト教系の大学に理工学部が欲しい。理事会の一致した意見で青山学院創立90周年の1965年に世田谷廻沢（現 千歳台）に理工部が設立された。機械、電気電子、経営の3工学系と物理、化学2理系の5学科（平成12年・2000年より機械工学科および経営工学科を改組し、機械創造工学科、経営システム工学科、情報テクノロジー学科を設置）であった。各学科60名の定員であった。私は1962年18歳で信州の片田舎より東京に下駄履きで出てきた。1965年、大学の指導教授より青山学院大学に理工学部が開設されるので助手にならないかと言われ、大学院も出ていないのに不安であったが建設中の世田谷キャンパスに面接に行った（5月）。教授の内定をいただき、8月から開学準備なので時々手伝って欲しいということで、研究室もない大部屋で必要なもののリストを作成していた。12月に正式に助手に決定した。

1966年3月に1～3号館と講堂兼礼拝堂が完成し理工学部開学式（献堂式も含む）が行われた。司会者が式典の終りに建物の見学会の知らせを始めた。1号館（事務、教員研究室、図書館）より4号館（講義棟）の案内、そして最後に女子寮（スクーンメーカー寮）であった。寮は教職員、学生の家族、学長といえども室内に立入り禁止、本日のみ見学できる旨であった。招待者を含め大勢の方が、他の施設はいつでも見学できるからと最後の道順であるスクーンメーカー寮を最初に見学し始めて案内係を困らせた記憶が思い出される。

開学初年度はある一定の点数を取らないと合格させなかったため、応募者は多数あったが定員に満たない入学者だった。若い教員達に本当に期待され、大切にされ卒業した。しかし第一期生の卒業生は物理科で2名、化学科で15名、電気電子でも38名位であった。第1回の世田谷祭は学業成績が悪いということで開催はさせないという教



世田谷キャンパス

員もいた。

なんとか教授会の許可が下り、学生達が喜んで作ったポスターをエレベーターの中に飾った。しかし、厳しい教員が私共の目の前で、「学生達が祭りをする資格は無い」と言って破り捨てた事もあった。私はその気魄に青ざめた。

これらの熱意から就職は年々すばらしい成果を上げた。各教員が企業廻りをした時、多くの会社で非常に評判が良いと言われてその事が会議で報告された。開学12年にして早、慶、理大と同じレベルまで偏差値は来ていた。事実、入試では75%の点数を取らないと合格できなかった。

世田谷キャンパスでは2回／週の礼拝がありずっと続いた。また教職員のキリスト教研修会も年1回、1泊2日で行われ続いていた。1年間季節の折々に学科対抗のソフトボール、テニス大会等もあり学生も教職員も多いに楽しんだ。

他方、全学部学生に対してアドバイザーグループがあり（現在も続いているが）、開学当初はすべての教員がアドバイザーになっていて活発な活動が続いていた。何人かの先生は春秋になるとバスを貸し切って1～2泊で楽しい一時を過ごしていた。

〔教職員の意気込〕

新しく研究室をもった教員は、私の今までの概念と異なっていた。理工学部に入職した教員は研究室立上げ1年目にして種々な形で業績を出し始めた（研究室を立上げてから4～5年は費やすと言われていた）。他の私大に比較して潤沢な研究費、研究設備の充実が追い風となった。徹夜での

研究は当たり前であった。

助手として勤務した1966年4月より、毎日のように購入測定器、装置の立合い検査に製造会社を訪ねた。購入装置がカタログ通りの値を示すかチェックし、また同時にメーカーの生産ラインの見学もさせてもらった。3年間で都内近県電機メーカーはほとんど見学できた。この事は以降現在まで私にとって本当に役にたった。またメーカーの第一線の人達と意見交換することにより、増々教育、研究への意欲が沸いてきた。ティータイムを設け、学部全体の教員間で自由に話し合いのできる楽しいキャンパスであった。学部全体で年200編以上の論文が内外の学会誌に掲載され、ノーベル賞候補者も出るようになった。

〔青山キャンパスでの講義〕

1969年から1年生のみ青山キャンパスで講義が始まった。多くの学生があこがれの青山キャンパスで1度は授業を受けたいという希望があり、現在の青山キャンパス1号館の東側に理工学部講義棟を建てていただいた。非常に評判が良かった。2年経ったころ学生運動が激しくなり、ロックアウトになった。青山キャンパスは無期限の閉鎖となったため、再び理工学部の学生のみ世田谷キャンパスに戻った。この青山キャンパス授業は紛争中でもあり短い期間だったので多くの卒業生、教職員も知らない人が多かった。

〔厚木キャンパスでの講義〕

以後青山に新学部ができ、校地面積の関係で厚木キャンパスが開校された(1982年4月)。理工学部も1年生は厚木キャンパスですべての授業を受けることになった。1年から2年生(世田谷キャンパス)に移るには成績に高い壁をもうけた。そのため約1割(50名位)の学生が世田谷キャンパスに移れなかった。学生は必死であった。また通勤通学に多くの時間がかかるため、校舎のすばらしさと反比例して受験生の評価も下がり理工学部の偏差値は年々下がってきた。

〔相模原キャンパス移転とお別れ会〕

厚木キャンパスの交通の利便性、1、2年生と3、4年生の分断のデメリット等を踏まえ、青山キャンパスにもっと近い場所を選択しはじめた。私が



2002年12月7日(土) お別れ会

理工学部長をしていた時、世田谷キャンパスの老朽化、耐震問題が出てきて、14階建てに建て直す案を提出し一部理事の承諾も得ていた。1999年8月の暑い日、学部長会の席上交通費を支給され、目的地も知らされず電車に乗った。渋谷から80分の相模原市(淵野辺駅)に連れてこられ、旧新日鉄(VLSI研究所)の見学となった。

この見学から3年で相模原キャンパス(公募で決定した名称)移転になった。移転が決定してからというもの会議の連続であった。卒業研究、修士論文をどのように完成させ、翌年1月からの引越しの準備に入るか等々。また38年間の思い出が詰まったこのキャンパスをただ一言「サヨウナラ、ありがとう」と言って離れることはできなかった。移転を知ったOB、OGから日を追う毎にメール、手紙が入ってきた。是非一度キャンパスに伺いたい、もう一度歩いてみたい。それがやがて大波となり「お別れ会」を開催することになった。あまり派手でなく「小ぢんまり」と考えて動き出したが、いつの間にか同窓会の人達からボランティアが加わり約18,000名の卒業・修了者全員に開催通知を発送した。当初は500名位の出席者を予想していたが、あっという間に全国から1,500名になっていた。感謝のコメントばかりで本当に恐縮している。

以上、世田谷キャンパスの歴史は私の歴史でもあった。1日1日はっきり思い出せるものである。まだ書きたりない分も沢山あるがまたの機会に述べたいと思う。



各人が持ち寄った思い出の写真集(2000枚の掲示・お別れ会のイベント)

2013 年度後期利用状況

1. 閲覧 () 内は前年度の数

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
資 料 閲 覧 者 数		12	(16)	18	(10)	18	(7)	23	(6)	16	(7)	18	(18)	105	(64)
区 分 ※前年度な かった項目は 空欄	本学学生	0	(1)	3	(4)	2	()	1	()	1	()	0	()	7	(5)
	現教職員	6	(7)	3	()	3	(2)	3	(1)	2	(5)	3	(7)	20	(22)
	旧教職員	5	(5)	6	(2)	6	(2)	9	(4)	9	(1)	8	(10)	43	(24)
	校友	0	(3)	1	(1)	3	()	2	()	0	()	1	()	7	(4)
	他大学教員	0		0		2		5		2		5		14	
	牧師	0		0		1		0		0		0		1	
	一般	1	()	5	(3)	1	(3)	3	(1)	2	(1)	1	(1)	13	(9)
利用の目的	教会史編集	0	()	0	()	1	()	1	()	1	()	1	()	4	()
	学校史編集	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()
	著述・論文作成	5	(3)	6	()	7	(2)	14	(2)	12	(10)	6	(9)	50	(26)
	伝記資料調査	0	(1)	3	(1)	1	(2)	2	(2)	0	(6)	0	()	6	(15)
	記録類の調査・研究	3	(9)	7	(7)	3	(3)	2	(1)	0	(3)	7	(5)	22	(28)
	その他	4	(3)	2	(2)	6	()	5	(1)	3	(1)	4	(1)	24	(8)
資料の種類	青山学院史関係 (AA)	7	(7)	10	(6)	10	(5)	15	(6)	12	(8)	13	(7)	67	(39)
	メソジスト教会関係 (B)	2	(3)	3	(1)	0	(1)	1	()	2	(3)	3	(2)	11	(10)
	英語・英文学関係 (F)	0	()	1	(1)	1	()	2	()	0	(3)	0	(1)	4	(5)
	明治期キリスト教関係 (G)	1	(2)	2	()	2	(2)	1	()	1	()	3	()	10	(4)
	一般分類図書	1	(4)	3	(1)	5	(1)	4	()	1	(3)	2	(8)	16	(17)
	その他	2	(2)	1	(1)	1	(4)	2	()	0	(4)	0	()	6	(12)
資料の形態 (閲覧点数)	図書	13	(29)	51	(17)	36	(87)	49	(14)	51	(100)	26	(46)	226	(293)
	マイクロフィルム	2	(2)	2	()	0	(1)	1	()	1	()	3	()	9	(3)
	写真 (含ネガ)	0	(95)	2	()	0	(1)	4	()	0	(10)	1	()	7	(106)
	アルバム	1	()	0	()	0	()	3	(2)	0	(6)	0	()	4	(8)
	個人資料ファイル	1	()	1	(1)	0	(3)	3	(4)	2	(4)	1	()	8	(12)
	ビデオ・DVD等	0	()	0	()	0	()	1	()	6	()	71	(1)	78	(1)
	その他	1	()	0	(1)	0	()	0	(1)	0	()	0	(2)	1	(4)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. レファレンス () 内は前年度の数

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
件 数		18	(7)	9	(11)	6	(12)	14	(5)	9	(2)	2	(4)	58	(41)
質問者の区分	学生	1	()	1	()	0	(2)	1	()	0	()	0	()	3	(2)
	現教職員	11	(4)	5	(5)	3	(3)	4	(2)	4	()	1	(1)	28	(15)
	旧教職員	1	()	1	(1)	0	()	2	()	0	()	0	()	4	(2)
	校友	1	(1)	1	(2)	0	(2)	2	()	0	()	1	(1)	5	(6)
	一般	4	(2)	1	(3)	3	(4)	5	(3)	5	(2)	0	(2)	18	(16)
質問内容	文献所蔵調査	3	(3)	2	()	0	(1)	3	(1)	2	()	1	()	11	(5)
	写真所蔵調査	1	(1)	3	(1)	0	(4)	1	(1)	1	()	0	()	6	(7)
	事 項 調 査	13	(2)	4	(6)	4	(5)	8	(2)	6	(2)	1	(3)	36	(20)
	そ の 他	1	(1)	0	(4)	2	(2)	2	(1)	0	()	0	(1)	5	(9)

3. 日誌抄



10月

- ・来客14人
- ・2014年度経常予算案提出
- ・資料センター運営委員会開催
- ・創立140周年記念事業実務委員会に事務長出席
- ・11月2日開催の築地居留地研究会第6回全国大会シンポジウムに、ポスター掲示のため聖路加病院へ出張

11月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室 (7回)
- ・展示閲覧希望来室 一般 2件、卒業生の親 1件、本学学生 1件
- ・来客3人
- ・2014年度臨時予算案提出

- ・築地居留地研究会第6回全国大会にて、資料センター・スタッフがシンポジストとして発表
 - ・教文館・日本キリスト教文化協会の方より資料整理について相談
 - ・11/18～一週間、博物館実習生受入3人
 - ・大学図書館システムのリプレイスに伴い、資料センター所蔵明治期キリスト教関係図書のOPACでの公開につき、図書館担当者と打合せ
 - ・特別展「明治期の日曜学校資料展」開催 (11月29日～12月20日)
 - ・大学入試業務手伝い
- 12月**
- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室 (2回)
 - ・来客 3人
 - ・「明治期の日曜学校資料展」、見学者数 計195人
 - ・クリスマスカード発送
 - ・「青山学院資料センターだより」9号発行

- ・『あなたと青山学院』に掲載する明治期讃美歌および日曜学校資料展撮影

1月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室（3回）
- ・来客 8人
- ・140周年記念刊行『青山学院の歴史を支えた人々』制作会議
- ・『青山学報』掲載用の英語の辞書の撮影

2月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室（3回）
- ・来客 6人
- ・大学入試業務手伝い
- ・『青山学報』（戦前期）、『青山学院新聞』、『マンスリー・レポート』のマイクロフィルムを、デジタル化のため広報部へ貸出し
- ・大学教職課程課と話し合い

- ・広報部、業者と140周年記念刊行『青山学院の歴史を支えた人々』打合せ。

3月

- ・大学名誉教授、記念誌校正のため来室（5回）
- ・来客 6人
- ・本学教員、社史編纂の相談
- ・資料製本を業者へ依頼
- ・展示検討小委員会開催
- ・140周年記念刊行『青山学院の歴史を支えた人々』制作会議
- ・『青山学報』編集委員会、事務長出席
- ・専門職大学院に、「地に播かれた三粒の種」DVD貸出し
- ・校友から寄贈の本多庸一の書（「清心者福矣」マタイ福音書5章8節）を受け取りのため出張
- ・『あなたと青山学院』掲載用のガラス乾板写真の撮影

2013年度後期受入れ

資料

（学内部署からの資料は除く）

寄贈（抜粋）

- 井筒明夫（校友）様より、Robert Venturi and Denise Scott Brown田蔵図書ほか建築関係図書多数（約250点）、上記建築関係者の方々の手紙、資料等ファイル 6点、R. Venturi and D. Brown 画 日光霧降リポート施設パース（額装）1点、R. Venturi 画 スケッチ（額装）1点、R. Venturi 画 スケッチブック1点、E. Hemingwayの初版本 3点（額装）、Max Bill画 グラフィック（額装）1点、供積層50万年前の古代貝化石・1977年西武百貨店船橋店増築工事現場から出土（ケース付）1箱、ヴェンチャー・ブラウン記念ライブラリー資料I～III 6点 ほか
- 木村光彦（教員）様より、『祈りの道—創立百周年記念教会史1904～2004—』2004年3月 日本同盟基督教団古川教会
- 黒澤康（校友）様より、『石川啄木—白雲一片、自ら其行く所を知らず』黒澤康著 2013年10月
- 松岡正樹様より、写真：日本メソヂスト青山教会のバイブルクラスでのBailey先生送別記念・Gealy先生歓迎記念撮影 1924年3月（次頁写真①）ほか
- 青山学院高等部同窓会様より、青山学院高等部同窓会報 vol.66 2013年11月、青山学院高等部案内 1962年
- 氣賀健生（校友、大学名誉教授）様より、「青山学院校友会青盾会の徽章」ほか
- 茗荷雅夫（校友、元職員）様より、平成23（2011）年東都大学野球秋季リーグ戦に於ける青山学院大学の試合結果状況 ほか4点
- 花村紀彦（校友）様より、『湘南の獅子』服部眞司著 2006年10月 ほか
- 吉岡勝見（校友）様より、「グリーンハーモニー OBニュース」No.48 2013年11月
- 武蔵豊岡教会様より、『日本基督教団 武蔵豊岡教会創立120周年記念 教会報の歩み』第1巻、第2巻 2009年12月
- 雨宮剛（校友・大学名誉教授）様より、『夏がくれば思い出す—評伝 中田喜直』牛山剛著 2009年4月、『こころの小石 池上博追悼集』平成26年2月
- 吉田恵子（校友）様より、青山学院大学体育会サッカー部ピンバッチ（サッカー部創部90周年記念）ほか
- 青山学院大学文学部日本文学科同窓会様より、会報『ひいふうみい』VOL.10 2013年12月
- 安倍愛子様より、『DCEだより』1～17号 1967年～1988年
- 青山学院大学文学部英米文学科同窓会様より、会報『Aoyama Sapience』第30号 2013年
- 辻雄史様より、「神戸の大船主、元市長 勝田銀次郎の功績を世界へ」神戸新聞記事 2014年1月
- 猪狩満信（校友）様より、青山学院大学卒業アルバム 1955
- Boyd R. Reedy（元宣教師）様より、高等部関係写真多数（次頁写真②）
- 聖ヶ丘教会様より、『日本基督教団羽曳が丘教会 会堂建設と三十年のあゆみ』2010年8月、『夕べになっても光がある～「引退教師を支える運動」三十年の歩み～』2010年2月、『溯源語彙：AN ETYMOLOGICAL VOCABULARY OF THE YAMATO LANGUAGE』松村任三著 大正10年7月 ほかキリスト教関係図書多数
- 築地居留地研究会より、『近代文化の原点 築地居留地 Vol.4』2011年8月
- 飯久保知信（校友）様より、『続 神の家族—光明園家族教会の100年—』2013年12月
- 阿部志郎（校友）様より、『MIN-YO, Folk-songs of Japan：日本民謡集』松原巖著 昭和21年11月（次頁写真③）、中等部出身者による「関屋先生」に関する随筆（発行年不明）ほか、資料多数
- 齋藤宏（校友）様より、『めばしい日の日記と、英語学習』齋藤宏、ローレン・リース編著 2013年10月
- 西南学院100周年事業推進室より、『キリスト教主義学校における諸問題 青山学院・関西学院宗教協議会記録』1967、「English Bible Class ご案内—1968年前期—」ほか青山学院大学キリスト教活動関係資料多数
- 西川治（校友）様より、『有為の奥山今日越えて—鈍牛の反芻録—』西川治編著 平成25年12月
- 眞鍋恵三（校友・元職員）様より、聖書『我らの主なる救主イエス・キリストの新約聖書 改訳 引照付』昭和5年12月、中学部卒業記念写真帖 55回 昭和13年3月、ほか
- 青山学院大学マスコミ研究会より、「Free Walker Aoyama」(F.W.A.) 創刊号～Vol.20（欠号あり）2002年11月1日～2012年10月
- 石丸新様より、『戦時下の教会が生んだ讃美歌』石丸新著 2014年2月
- 和田明子（資料利用者）様より、『日本の経済地理学50年』藤田佳久・阿部和俊編 2014年3月
- 郷土出版社（資料利用者）様より、『目で見える 渋谷区の100年』原卓也編 2014年3月
- 穴倉正弘（資料利用者）様より、『岡豊峯吉小伝—紐育への点と線』穴倉正弘著 平成26年2月
- 田添禧雄（校友）様より、『田中忠雄展—慈しみと愛を描く—』図録 1987年10月～11月 兵庫県立近代美術館編・発行 ほか
- 他大学年史・紀要類多数

購入

『聖書の説』米国遣傳教使事務局 明治12年11月、『祈祷楷梯』米国遣傳教使事務局 明治14年、『彌陀物語』米国遣傳教使事務局 明治14年12月、『七福神の埋葬』米国遣傳教使事務局 明治14年2月、『日曜日論』米国遣傳教使事務局 明治14年2月、『絵入心の鏡』飯島静謙譯 明治13年11月、『天地人』松村介石著 警醒社書店 大正元年10月、『家庭に於けるキリスト者の精神』アレキサンダー夫人著 発行年不明(写真④)、『心の華叢書 — 歌集 東また東』米山梅吉著 昭和5年3月、『農学小学 全』田中正幅編 貫通社 明治12年、『学窓余談』創刊号～第2巻第5号(欠号あり) 明治31年9月～明治32年6月、川上澄生木版画「キリスト」、『下野民謡採集』椎橋好著 昭和8年6月、『母の心掛』アレキサンダー夫人他著 発行年不明、『第8回世界日曜学校大会記念絵葉書』4枚 大正9年、『日本の婦女子へ贈る文』発行年不明、『全国宣教會議』日本基督教団全国宣教會議 昭和29年2月、『The S.P.G. in Japan』発行年不明、『家庭に於ける善良なる感化は最も良き市民を作る』小谷氏述著 大正7年4月、『箴に付て數言』ドレバー夫人著 発行年不明(写真⑤)、『奥さま方に數言』エム・イ・アームストロング女史 発行年不明、『大日本聯合母の會事業概要』大日本聯合母の會 東京 大日本聯合母の會 昭和11年頃、『母の友 第2巻』アレキサ

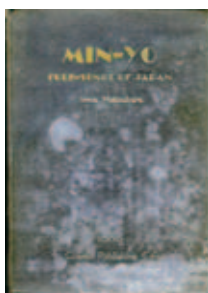
ンダー編 昭和9年5月(写真⑥)、『十年を顧みて』東京母の會連合会編 昭和35年7月、『女学世界定期増刊 女重宝記』第6巻2号 松原岩五郎編 明治39年1月、『女学世界』第5巻16号 松原岩五郎編 明治38年12月、『角田先生』マーク・ガイ・ピアース 明治38年12月、『立徳堅信談林』星野光多編 明治26年2月、『實際討論辯斥天理教』明教社 明治26年9月



写真① Bible Class Bailey先生送別・Gealy先生歓迎記念 1924年3月



写真② 高等部ENGLISH SPEECH CONTEST (撮影年不明)



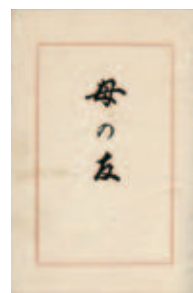
写真③『MIN-YO』
FOLK-SONGS OF JAPAN
by Iwao Matsubara



写真④『家庭に於ける
キリスト者の精神』
アレキサンダー夫人著



写真⑤『箴に付て數言』
ドレバー夫人著



写真⑥『母の友』第二巻
アレキサンダー夫人著

青山学院資料センター利用案内

資料閲覧希望の場合は、必ず事前にご連絡ください。

なお、11月11日(火)から青山学院創立140周年記念展示をするために、展示ホールの工事と展示準備の期間<7月30日(水)～11月10日(月)>は、閲覧およびレファレンスを休止させていただきます。大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解の上ご協力ください。

展示ホールの公開については、後日WEBにてお知らせいたします(下記URLをご参照ください)。

★資料の閲覧曜日、時間

火曜日 9時30分～17時

土曜日 9時30分～13時

(昼休み11時30分～12時30分)

★休室日

日曜日・国民の祝日・クリスマス・年末年始(2013年12月25日～

2014年1月5日)・その他青山学院が定める休日

★お問い合わせ・連絡先

TEL: 03-3409-6742 FAX: 03-3409-8134

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 間島記念館2階

★URL <http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/>

資料センター運営委員

院長(職務上)

2014年6月30日まで

2014年7月1日から

常務理事1名(職務上)

学院宗教部長(職務上)

2014年3月31日まで

2014年4月1日から

山北 宣久

梅津 順一

杉村 佐壽

嶋田 順好

シュエ士戸 ポール

大学図書館長(職務上)

大学 教員1名

女子短期大学 教員1名

高中部(高) 教員1名

高中部(中) 教員1名

初等部 教員1名

幼稚園 教員1名

総局長(職務上)

資料センター事務長(職務上)

三村 優美子

清水 信行

谷本 信也

佐藤 隆一

小田井 孝

窪田 靖

川島 祥子

伊豆 一男

傳農 和子

資料センタースタッフ人数

専任 2人

パートタイム 4人

派遣 1人

以上のうち『青山学院150年史』

スタッフ

パートタイム3人(のべ週4日)

派遣 1人(週5日)

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 10号

2014年7月20日

青山学院資料センター編・発行



印刷: 三美印刷株式会社
1,500部